

(資料1) 実態調査結果 (抜粋)

項目	内容	割合(%)			
		男	女		
生	志望動機	高校を卒業していないと社会に出てから困る	25.9	24.4	
		希望しなかったがほかに行くところがなかった	16.0	11.2	
	学校生活への適応感	満足している	22.3	28.0	
		どちらともいえない	47.0	52.7	
徒	満足内容	友人関係	25.8	38.7	
		部活動	17.9	16.2	
	不満内容	勉強	13.4	12.5	
		部活動	22.3	12.5	
保	学校に期待すること	先	19.5	21.2	
		勉 強	16.7	18.7	
	先生に期待すること	進路指導に関して	30.5	37.0	
		生徒の自主性を尊重してくれること	21.1	25.0	
護	高校教育に望むこと	わかりやすく教えてほしい	29.0	23.9	
		生徒の良さを伸ばしてほしい	25.8	27.0	
		やさしく、おもしろく	24.1	25.0	
	者	進学させた理由	社会生活に必要な生活習慣の育成	32.6	
			学習に力を入れる	24.8	
			道徳的な資質(思いやりなど)を身につける	23.4	
		特に長高に進学させた理由	高校ぐらい出ないと社会に出てから困る	52.1	
			本人の希望が強かったから	29.8	
			本人の学力に合っていた	27.3	
		長高に進学してからのお子様の様子	第一希望が達せられなかったから	21.3	
			変化がない	約 50	
			よくなっている	20-40	
これからの長高に望むこと	悪い傾向	10以下			
	満足、やや満足	83.3			
	学力の向上に力を入れる	45.7			
これからの長高に望むこと	服装、礼儀などのしつけ	30.5			
	部活動への期待	14.9			

- ① 基礎学力の充実を図ること。  
 ② 目的意識を持たせること。  
 ③ 基本的な生活習慣(態度)を確立させること。
- (四) 適応指導を図るための基本的な考え方  
 ④ 学校生活を楽しみ、充実感、成就感を持たせること。

五、適応指導の具体的方策と実践状況

(一) 基礎学力の充実  
 本校では、中学校三年生までに学習する漢字の習熟と中学校二年生までに学習する基本的な計算問題の習熟を到

(資料2) 学校裁量時間年間計画

- (1) 実施時数  
 1年……61時  
 2年……61時  
 3年……51時
- (2) 実施内容  
 ア. 基礎学力 1年…21時 2年…21時 3年…15時  
 イ. 学年学裁 1年…12時 2年…12時 3年…11時  
 ウ. 自由裁量

行事内容	1年	2年	3年
城山清掃	2	2	2
花いっぱい運動式	3	3	3
壮行会・表彰式	2	2	2
遠足事前指導	1	1	1
除草	1	1	1
部活動集会	1	1	1
水泳教室	4	4	4
いも煮会事前指導	1	0	1
修学旅行事前指導	0	1	0
合唱祭・ミニ文化祭	6	6	6
工芸作	4	4	4
スキー教室事前指導	1	1	0
選択科目の説明会	1	1	0
落書きおとし	1	1	0
合計	28	28	25

- ① 「朝学習テスト」  
 昭和三十七年度より、毎朝五分間の豆テストを実施してきた。学習の継続性や学習の習慣化という目標に迫る方策であり、その趣旨は十分生徒に浸透しており、定着化し、基礎学力の向上に貢献している。
- ② 「基礎学力」  
 学校裁量時間を基礎学力充実に活用し、プリント学習を実施(資料2参照)。

達目標とした。  
 具体的には、毎朝のショート・ホームルーム時に行う「朝学習テスト」、同じテキストを使用して行う学校裁量時間の中の「基礎学力」、さらに、これらを集約したものとして行う「月例テスト」などである。

その活用については各ホームルーム担任に任されているが、班別学習(相互採点、教え合い、班別得点対抗等の実施)や一斉指導(解答は生徒が黒板に出して書く、特にまちがいがいやすい問題は教師が解答等)を適切に組み合わせ効果をあげている。

- ③ 「月例テスト」  
 年間五〜六回を目標に朝学習テスト基礎学力テストのまとめと定着を図るために実施してきた。  
 各教科(国語・数学) 八十点以上を合格点とし、不合格者には、放課後の特別指導(自学自習、個別指導を全職員で十七時まで実施)を実施し、合格点に達するまで追試(平均六〜八回)を受験させる。